

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第31号

平成30年 2月 8日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

## 悪循環から退く勇気を周囲が支える

### 「相手に問題があっても、いじめをしていい理由にはならない」

「いじめ」についての私の考えをお知らせするのは、今回が3回目になります。今回は、往々にしてこじれて複雑になる場合です。しかし、よくあるケースでもあります。

次のケースは本校の事例ではありませんが、よくあるケースなので心当たりがある場合はご容赦ください。

生徒Lは、生徒Mから「生徒Nが自分についてのうわさを流している。それを面白がって聞いている生徒が少しずつ増えている。」と教えられた。生徒Lは、生徒Mら数人の友だちに生徒Nと話をしないように頼み、生徒Nについての悪口を広めるような行動をとるようになった。



このようなケースは、ケータイなどのネット上でも増えてきました。それらは、「相手がやったからやり返しているので、私（だけ）が悪いわけじゃない。」という考えでは、悪循環になっていくばかりです。双方とも心が傷つき、得をする人は誰もいません。その悪循環を断ち切るために、「やった、やられた」という応酬から勇気をもって退くことが先決問題です。

また、このようなトラブルは、初期の段階であれば、事実を確認し、互いに話し合っ解決することは十分可能だと言われます。しかし、指導後も時間が経つと再発する場合や相手を替えて繰り返す場合は、それではすまなくなります。

その場合は、その行為をやめることができない生徒が問題を抱えていることが考えられます。相手が謝り、やり返さなくなったのに、それでも執拗に攻撃を続けている場合、本人の自覚があるなしにかかわらず、別な問題でストレスを抱えており、そのストレスを発散している場合があります。いじめという形でストレスを発散しても、心の奥は決して愉快になることはなく、実際にはストレスは膨れあがっていくばかりだということが想像いただけるでしょうか。

その行為を続ければ続けるほど、心の傷は深くなってきたという内面の推移に気づかせ、その生徒の心に寄り添いながら、「相手が悪いのだから、されるのは当たり前」という考えを突き崩さなくてはなりません。関与する大人が「相手も悪いのだから仕方がない」という考え方では、それはできません。毅然として「相手に問題があっても、それがいじめをしていい理由にはならない」という姿勢を貫きます。その上で、その行為をやめさせるとともに、その生徒のストレスの原因となっている問題の解決に向けても、学校と保護者が協力して支援を進めることが必要になってきます。また、状況によっては、カウンセラーや保健師など、外部の専門家の協力も仰ぎます。

さて、私自身が今どのようにすればよいか、困っているケースがあります。人と人との間には適度な心の距離感というものがあるって、それは、相手によって一人一人異なります。また、自分が求める距離感と相手がちょうどよいと感じる距離感も同じではありません。中学時代には、それが友だち関係の変化として表れることも少なくありません。相手に悪意がなく、ちょうどよいと思う距離感で接していても、避けられると感じて悩む生徒もいます。また、友だち関係が変化したことで、友だちを失ったと苦しむ生徒もいます。実は、このことを踏まえて本紙第25号に「友だち関係の変化について知ろう」という記事を書きました。生徒と保護者の皆さんにも、一緒に考えていただければ幸いです。



## 面接練習からの教訓

昨日2月6日(火)は、県立高校1期選抜の合格者内定の発表がありました。これで、私立高校の専願・併願合格者と合わせて、3年生のほぼ半数が合格したことになります。私のところへ報告に来て、「これから受験をする友だちをサポートできるよ、これからはしっかりした生活を送ります。」と言った言葉が、本心から出た言葉であると表情からわかりました。

面接練習で感じたことを3点、今後の教訓として述べてみます。3年生だけでなく、1、2年生にも受け止めてほしいと思います。

### 1 受験する高校の「建学の精神」「教育目標」を覚えて、志願理由を固める。

「建学の精神」「教育目標」は、教育方針の土台。志望校を決める際には、第一に参考にしたい。特に、「高校側が求める生徒像」として「本校の建学の精神、教育目標に賛同し、努力できる者」とあるのに、知らないのではおかしい。

### 2 高校卒業後の進路、社会に出たときの夢や希望については、まだ明確でない生徒も1年生の早い段階で決める。

高校生活の成否は、1年生の過ごし方で決まる。事実、多くの学校は夏休みの前後に、進学か就職か、志望大学は文系か理系かなどについてアンケートを行う。ある程度将来の職業なども絞っておかないと進学先の学部・学科、取得する資格も選択できない。

### 3 社会の出来事について関心を高めよう。

ニュースを読む、聞くことを毎日の習慣にする。昔は、茶の間で新聞を広げ世の中のことを家族の話題にするのはお父さんの役目だった。メディアがあふれている現代は主体的に世の中への関心を高めることができる。

## ひと味違うぞ！ 二中生

1月29日(月)、差出人の名前のない封書が学校に届きました。それは次のような内容でした。

略啓

突然のお便り失礼いたします。

先日の雪の日、二中前の坂道で車がスタックし困ってしまいましたところ、二中の女子生徒と思しき方々が「押しましようか」と声をかけて下さり、無事車を動かすことができました。その際お礼をのべることもなくその場を立ち去ることになってしまったのですが、皆さんのご好意に感謝しております。本当にありがとうございます。須賀川第二中学校の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

一市民 草々

お手紙を下された「一市民」の方のお気持ちがうれしいのはもちろんですが、それだけではありません。

スリップして動けない車の救援に、職員が率いていくのは男子生徒です。この手紙にあるのは女子生徒ですから、完全に自発的な行為なのです。職員の目の届かないところでも、そして誰に言われるでもなく、このような行為ができる生徒がいることを、私は心からうれしく思います。



## ことばの力⑨「自分ばかりを中心にして・・・」

自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のことも、ついに知ることができないでしまう。大きな真理は、そういう人の眼には、決してうつらないのだ。

ジブリ映画の次回作として話題になっている「君たちはどう生きるか」。吉野源三郎が書いた80年前の同名小説が、原作として注目を集めています。私がこの本を読むのは、高校生の時、教員になったばかりの時、そして、校長に昇任した時、そして今回で4回目になります。

地球を中心に天体が回っていると考えた天動説。逆に、地球が太陽の周りを回っているという地動説を唱えたのはコペルニクス。主人公のニックネーム「コペル君」は、ここに由来しています。このニックネームはコペル君の叔父さんが付けたもの、引用はコペル君のために書かれた叔父さんのノートから。



自己中心的に判断しては世の中の本当のことがわからない、と言う。「本当のこと」とは「大きな真理」を指しています。世の中が自分を中心に戻っているのではないと気付いたコペルくんは旧制中学の1年生。小説は、現在の中学・高校生に当たる年代を対象に書かれたものです。高校時代の私がこの「真理探究」の気概に共鳴できたのか、振り返っても思い出せません。